

2月と言えばバレンタインデー。日本にすっかり定着し、今や春の季節にもなっています。ただし日本のバレンタインデーとはチョコレートを配る日のこと。この日の前後、日本で消費されるチョコレートの量は膨大なものでしょう。

日本人で最初にチョコを食べたのは、慶長の遣欧使節を率いた支倉常長つねながだという説があります。寄港したメキシコで「しよくらあと」となるものを買ったと記録にあり、これがチョコレートではないかというのです。日本に持ち込まれたのは1797（寛政9）年とか1715（正徳5）年とか諸説あります。有力なのは寛政9年説で、長崎に来たオランダ人が遊女に贈ったプレゼントの中に「コオヒイ豆」と「チョコラート」があるそうです。なんとロマンチックな話というのは早計で、このころのチョコは黒くて苦い飲み物でした。砂糖を入れるようになるのは、バンホーテンがココアパウダーを発明した1828（文政11）年以降のこと。板チョコができたのは1847（弘化4）年です。甘くないチョコをもたらした女性はどんな顔で食べたのでしょうか。（K）

広告